

奈良公園の鹿と環境を守るためクラウドファンディングを活用

株式会社新踏社 しんとしや 奈良県奈良市

■クラウドファンディングで奈良公園のゴミ問題を解決

2018年3月、奈良県が実施する「ならクラウドファンディング活用支援事業」の2017年度認定企業（今年度は1社）に、奈良市で三代90年近く続く老舗印刷会社『株式会社新踏社』が選ばれた。現在、奈良公園の鹿を保護するための「奈良公園 鹿と共生 雑貨づくりファンド」を募集 중이다。

同支援事業は、インターネットを通して全国の投資家に呼びかけ小口投資を募る「クラウドファンディング」の手法により資金調達する中小企業者を支援するもので、県はファンド設立費用の補助（最大100万円）と、HPなどでの全国への情報発信等の支援を行う。

同社では印刷が持つ可能性を模索する中で、2016年から寄付金付きチャリティノート「ノーモ」を販売。売上の4分の1を「奈良の鹿愛護会」に寄付し、鹿の保護活動資金の一部とするなどの取組を続けてきた。「休日の各種イベント等でのノーモの販売を通して様々な人と知り合い、奈良公園の鹿が直面するゴミ被害の問題を知った」と安達研社長と妻の安達香奈子取締役は振り返る。

現在奈良公園にはゴミ箱が設置されていない。その理由は、ビニール袋などのゴミを鹿がエサと勘違いして誤飲し、胃で消化されず死に至る危険があるからだ。訪日外国人ら奈良公園への観光客が増加している中、「ゴミ箱がない理由とマナーの徹底を周知し放置されるゴミを減らすことが喫緊の課題」と同社は判断。それが今回のクラウドファンディング事業につながった。

■紙袋やエコバッグで鹿と環境を守る共通理念を広める

具体的な事業の内容は、奈良公園の鹿と環境を守るため、公園散策用の「捨てられにくい紙袋」や、奈良特産の蚊帳生地を用いた「エコバッグ（あずま袋）」等の雑貨を開発・販売すること。

あずま袋とは、1枚の布の2か所を縫って袋状にしたもので、糸をほどけばまた元の布に戻る、日本の包む文化を表す元祖エコバッグともいえるものである。

紙袋には公園にゴミ箱のない理由を多言語で印刷して周知に努め、使い捨てない布製の袋を持参することで「公園には何も残していかない」という共通理念を広めることを事業の目標としている。

ファンドの調達目標額は300万円（1口は21,000円）で、募集期間は2018年8月末まで。ファンド応募特典として、1口につき蚊帳生地を用いた鹿の子模様（鹿の背中白い斑点模様）のあずま袋セット（4,000円相当）が用意される。

紙袋やあずま袋は現在試作品を作成中。「ホテル、旅館、土産物店など奈良公園に関わる人々を巻き込んで、皆が少しずつできることをして社会問題を解決できるよう、これ以外にも様々な活動や情報発信を続けていきたい」と安達社長は語る。

同ファンドの詳細は以下のHP参照。

セキュリテ「奈良公園 鹿と共生 雑貨づくりファンド」
<https://www.securite.jp/fund/detail/4257>

（吉村謙一、太田宜志）



チャリティノート「ノーモ」とイベントでの販売の様子。可愛い鹿の写真が外国人観光客にも人気で、毎年6月の「子鹿公開」期間には約1,000冊が売れるという。



安達研社長と
香奈子取締役

株式会社新踏社

〒630-8264
奈良県奈良市鍋屋町19-1
TEL: 0742-23-5055
FAX: 0742-22-6410
URL: <http://shintosya.com/>